

重点項目	学習活動（生徒の学習意欲の喚起と基礎学力の伸長及びICT活用）	
重点課題	<p>①②生徒の探究心を喚起する「主体的・対話的で深い学び」を実践し、さらには家庭における学習や探究を促進するために、ICT機器や教育用クラウドサービス等を積極的に利用し、生徒の学びに向かう意欲を高める。</p> <p>③検定合格に向けて主体的に学習に取り組む能力を育成する。</p>	
現 状	<p>①②生徒一人につき1台が配備されたタブレットと教育用クラウドサービスの活用により、すべての生徒がこれらを使いながら授業に向かう環境が整っている。よって、教員にはこれまで以上にこれらの利用を通じて、授業において、生徒対生徒、教師対生徒の「主体的・対話的で深い学び」を重視した改善を図り、家庭においても積極的にICT教材による学習や探究活動に取り組みさせることが必要である。</p> <p>③商業科の生徒はそれぞれの目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには、高校に入ってから学ぶ商業科目の基礎をしっかりと身に付けた上で、それぞれの検定に合わせて自らの力を向上させていく必要がある。授業においても、生徒の学力を伸ばし、検定取得につながるように、常に効果的な指導を模索し工夫していくことが求められる。検定取得が生徒の学ぶ意欲や進路目標の達成にも繋がっている。</p>	
達成目標	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、授業において、タブレットや教育用クラウドサービスを活用した教員の割合</p> <p>②家庭学習でタブレット及び教育用クラウドサービスを週3回程度利用した生徒の割合</p>	<p>③商業科：卒業までに全商主催検定9種目中、3種目以上で1級を取得した生徒数</p> <p>(1)簿記 (2)ビジネス文書 (3)ビジネス情報 (4)プログラミング (5)商業経済 (6)珠算 (7)電卓 (8)英語 (9)財務諸表分析/財務会計/管理会計</p>
	<p>① 80% ② 60%</p>	<p>15人以上（卒業年度）</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現について、タブレット等を用いた授業の積極的な実施と意見交換を促す。 ・生徒に効率よく家庭学習を行うアイテムとしてタブレットや教育用クラウドサービスの積極的な利用を促す。 ・朝や放課後の補習授業を実施する。 ・商業関連部活動を充実させる。 ・3年生1級未取得者に対し特別受験指導を実施する。 ・教員の指導力向上のための校内研修会を充実させるとともに、校外で開催されるセミナー等の積極的な参加を促す。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活（心身ともに健全な人格の育成）
重点課題	規範意識の向上と規律正しい学校生活の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの生徒が自分のスマホを持っており、自他の個人情報を安易に SNS に掲載したり、ネットルール・マナーを守らないことでトラブルが起きている。 ・ネットパトロールからの情報提供を受けて指導した生徒は近年少なく、令和2年度3名、令和3年度1名、令和4、5年度は0名だった。 ・スマホ等を平日3時間以上使用している生徒は約50%にもなる。特に SNS と動画はほとんどの生徒が利用し、ゲームは約70%である。また、夜12時以降にスマホ等を使用している生徒が約20%おり、スマホ使用に起因する問題点のトップである「学習に悪影響、睡眠不足」（14.2%）につながっている。 ・令和5年度からネットルール4箇条を共通ルール3とマイルール1とした。マイルールについてはネットルールツリーを作成し、可視化することで意識の高揚を図った。 ・生活リズムの乱れ等不規則な生活習慣により不調を訴える生徒が比較的多いため、基本的な生活習慣の確立に向け、心身の健康について主体的に考え、判断し、行動する態度の育成が必要であると考える。
達成目標	<p>①学校ネットルール4箇条を遵守できる生徒の割合 80%以上</p> <p>②生活習慣・心と体の健康にかかわる広報活動を行う（隔月に1回以上）</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ使用に関するアンケートで使用実態を把握し、イレブンセブン運動やネットルール4箇条の遵守を積極的に推進することで、長時間の使用を控え、ネット依存にならないようにする。 ・情報モラルやセキュリティの意識向上を図るため、スマホ安全教室（1学年対象）の実施。 ・全体集会や授業、HR、インフォメーションコーナーを活用し、実際に起きている事件や事故の情報を伝え、被害者にも加害者にもならないために必要なことを考えさせる。 ・保護者にも協力を依頼し、家庭でスマホの使用について話し合う機会を持ってもらう。 ・生徒が問題意識をもって主体的に活動できるよう、校内の環境を整える。 ・保健室周辺のホワイトボードを広報活動に活用する。 ・生徒保健委員会で生活習慣について今の自分たちに必要なことを話し合い、調査・研究を行う。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和6年度 石動高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（自己実現に向けて生徒自らが努力するための支援の充実）
重点課題	進路意識の向上と生徒への進路支援の充実
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現のためには、早期に目標を設定し、それに向けて学習を積み重ねることが重要であるが、目標がはっきりと決まらないまま3年次を迎える生徒が多い。生徒たちが少しでも早く進路目標を見つけるための手がかりとして、進路講演会やガイダンスなどを校内で実施し、進路を考えるきっかけ作りを進めている。その上で、オープンキャンパスや見学会などは、生徒の能動的な活動として、進路意識を高める大きな役割を果たすものと考えている。 年内入試が大きな割合を占める本校では、各生徒の志望に応じたサポートが不可欠となっている。さらに、一般入試に挑戦する生徒が、最大限の力を発揮できるように環境を整えていく必要がある。
達成目標	1・2年生： オープンキャンパスや学校見学会、校外の研修会などへの参加回数 年1回以上 3年： 進路支援の満足度 4段階評価による3以上が90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスや見学会実施の情報提供はもちろん、オープンキャンパスの参加方法や参加の際に大切なことなどをわかりやすく生徒に伝える。 進路志望に添った個別の声掛けなどを積極的に行う。 オープンキャンパス等に参加した際のレポートを、休業中の課題にするなどして、生徒に働きかけを行う。 生徒一人ひとりがどのような支援を必要としているのかを個別面談で丁寧に聞き取り、一人ひとりに指導が届くように、3学年担当者だけでなく、学校全体で進路支援のサポートを行う。 進路支援の体制を常に見直し、職員間の情報共有を大切にする。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和6年度 石動高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動の取り組みを通して主体性や積極性を育成する。
重点課題	特別活動へ主体的に参加し積極的に関与できるよう活動内容を工夫する。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 体育大会や学校祭をはじめとする特別活動では、生徒達が意欲的に取り組む様子が見られ、集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築くとともに自主性や連帯意識を育てている。 本校部活動数は運動部が13、文化部が10あり、部活動加入率は運動部約54%、文化部約30%、全体で約84%と、多くの生徒が部活動に参加している。
達成目標	①学校行事（体育大会、学校祭）に対する充実度 5段階評価による4以上が70%以上 ②部活動に対する充実度や結果に対する満足度 5段階評価による4以上が70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動や学校行事への生徒参画の機会を増やすとともに、生徒の社会性や指導力の向上を図れるよう運営や内容を改善し、多くの生徒が最後に充実感を感じられるように活動方法を工夫する。 全体計画や活動内容等について顧問と部員が情報共有しながら、個人や集団の実態に応じて具体的目標を設定し、活動を行う。 学校行事や高体連、高文連主催の各種大会等後にアンケートを実施し、その結果を踏まえて以降の活動内容を検討・改善する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)